

| 事業者が特に力を入れている取り組み① | | |
|--------------------|--|---|
| 評価項目 | 1-1-2 | 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている |
| タイトル① | 毎月の職員会議に経営層と職員が参加し相互理解を深めている | |
| 内容① | 今年度より毎月の職員会議には経営層と職員が参加し、意見交換が図られ、経営層による意思決定にも相互理解が得られている。これにより、課題の早期発見や改善内容の明確化が進み、事業の標準化に取り組みやすい体制づくりに力を入れている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② | | |
|--------------------|---|--------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-3 | 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている |
| タイトル② | 経験を通して、生活していく上で必要となる力を身に着けていけるよう援助している | |
| 内容② | 基本的な生活習慣や社会生活上のルール」という点では、例えば、戸外活動で公園に行く際は、「前に立ち過ぎない」「周りに注意を向けられるか」「横断歩道で止まれるか」などといった点に留意し、子どもが自発的に動けるようになるように援助している。また、トイレや清潔の保持、着脱、挨拶などのマナーなど、社会に出た時に困ることなく、また生きていく上で必要な力を身につけていけるよう、長期的な見通しになって、必要な力を育ていけるようかかわっている。 | |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ | | |
|--------------------|--|--------------------------------|
| 評価項目 | 6-4-3 | 子ども一人ひとりの状況に応じて生活上に必要な支援を行っている |
| タイトル③ | 運動機能の発達とともに、感覚面にもアプローチしている | |
| 内容③ | 身体的アプローチをメインとした活動を行っている。触れるのが苦手な場合は、情緒も影響するため、触れ合いや感触からアプローチも行っている。全身を使った動きや手の操作では、足曲げ、足揺らし、金魚体操などのコンディショニングにより、身体を緩めている。バランスボールやトランポリン、巧技台などでバランス感覚と身体の動きを調節する感覚に働きかけている。活動を楽しみながら、身体操作の能力を培い、筋力もつけている。 | |

| No. | 特に良いと思う点 | |
|-----|--------------|--|
| 1 | タイトル | 地域主導で設立された経緯もあり、地域の一員として役割を果たしている |
| | 内容 | 児童発達支援や放課後等デイサービスを必要とする地域の子どもとご家族のために、支え手となる職員も地域の有資格者が集まって設立した経緯がある。経営層は地域で複数の役職に就いたり、主任児童委員を務め、地域のニーズを拾い出し、地域交流の場へのお誘いなどもある開かれた事業所となっている。また、周辺地域では子どもが増えており、それに伴って多機能型事業所を必要とする子どもも比例して増加していることから、現在は1事業所のみであるが、地域のニーズに応えられるよう、発展することも将来的な目標としている。 |
| 2 | タイトル | 経営層と職員が協力して組織力向上に取り組んでいる |
| | 内容 | 利用者サービスだけでなく、事業運営での課題についても経営層は職員の意見に耳を傾け、相互協力しあう風土がある。組織運営の決定権は経営層であるが、決定に至るまでには職員の意見や経営上の予算管理など、それぞれの役割を果たしている。運営上、確認したいことがあれば東京都のホームページや事業所ハンドブックをこまめに確認し、都度意見交換をして事業所運営の確立を図っている。 |
| 3 | タイトル | 子どもが必要とする力を伸ばしていけるよう、明確な意図をもって集団・個別の活動に取り組んでいる |
| | 内容 | 子どもの成長・発達を効果的に支援していくために、小集団・個別それぞれのプログラムを編成し、活動を通して主体性を育み、「その先」を見据えて必要な力を培っていけるように日々工夫して取り組んでいる。小集団の場合は、子ども同士の適度な刺激を成長につなげ、経験を通して培われる自信や自己肯定感をもとに子どもが自分らしい生活に向かっていけるように援助している。個別の場合は、一人ひとりの課題やその解決のためのプロセスを刻み、活動の積み重ねを通して力をつけていけるようにしている。 |
| No. | さらなる改善が望まれる点 | |
| 1 | タイトル | 事業所経営の安定化と組織運営の確立をより進めていくことが必要である |
| | 内容 | 経営面については黒字化に向けてロングスパンで考えているが、今後、職員の昇給や昇格に伴う処遇や巧技台の改廃、将来的な事業所の展開を考えると経営の長中期計画も必要である。しかし、通所の子ども同士の相性や支援内容により、稼働率を高めることだけでは日常の支援に影響がでることから、計算通りには行かないが、節約できるところは経費を節約し、人材育成には経費をかけるなど、経営の工夫と組織運営の確立をより進めていくことを目指している。 |
| 2 | タイトル | 的確な記録を継続していくために、事務時間を保障していく必要がある |
| | 内容 | 現在、時間割としては一日に3枠のプログラム組んでいる。子どもの人数や構成は日々様々1枠分でも事務の時間に充てることを意識してはいるものの、時間の確保が難しい時もある。支援に入らない時間をバランスよくとり、事務時間の確保に努めていくことで、職員負担に配慮しつつ一定水準の記録を継続していくことを目指している。 |
| 3 | タイトル | 地域とのかかわりのあり方を固めていく必要がある |
| | 内容 | 法人代表者が区内のボランティアとのかかわりの中で支援ニーズをつかんだことをきっかけにして、「地域福祉への貢献」を使命として設立された事業所である。療育による子どもの成長・発達には一定の成果をあげており、現利用者の満足度は高い。提供している支援の質や充実した内容を踏まえると、地域において果たしている役割を考えていく時期ともいえる。情報の発信や交流など、地域とのかかわりを、何を目的として、どのような形で展開していくか、固めていく必要がある。 |